

外山正一 （とらふ） 社會學者、文學博士。嘉永九年九月（一十七日）江戸生れ、明治二十二年二月八日歿（一八八一—一九〇〇）。幼名捨八。號之山、華名、山仙士、山居士、外山仙、外山仙士等。著書講所で英學を學び、開成所教授方となる。慶應一年イギリスへ、明治二年アメリカへ留學。九年東京開成學校教授、二十年東京帝國大學總長、翌年文相。

著書「民權辯惑」（内題「民權辯惑」明治十三年二月自刊、丸屋善七賣別）、「新體詩抄・初編」（矢田部良結共撰、明治十五年八月井上哲次郎出版。再版「新體詩鈔・初編」内題「新體詩抄初編」十七年二月十五日自刊、井上哲次郎九家善七出版、中曲屋邦太池發兌）、「雄辯實地演說筆記・上卷」（合著、明治二十年六月一日内山龜太郎編刊、京改進堂・鶴聲社發兌）、「折學汎論」（合著・菅野幹編撰并評、明治二十年十月林竹二郎上田捨吉刊、大阪・哲學書房）、「雄辯實地演說筆記」（合著・内山龜太郎編、明治二十一年二月京都・改進黨書店）、「日本繪畫の未來」（明治二十二年五月十五日自刊）、「新體詩歌集」（中村秋香・上田萬年・坂止臣合著、明治二十八年九月二十五日大日本圖書株式會社）、「五十名家發願録」（合著・平田曾仙撰、明治二十一年七月十一日平田勝馬刊、鐵華書院）等。

